

令和5年度

岩泉町立岩泉小学校報



しずがわ

令和5年度 第10号
令和5年 9月11日
文責 校長 吉田 浩規

まなびフェスト(学校の取組) 1学期評価

<結果の見方について>

児童の結果は、評価項目にある内容についてアンケート調査等による達成状況を百分率(%)で表したものの。

教職員・保護者の結果は、まなびフェスト達成に向けた学校の取組に対する評価(4段階)のうち肯定評価の割合を百分率(%)で表したものの

1 「みずから学ぶ子ども」

※単位はすべて%、網掛けは目標未達成項目

NO	項目	児童	教職員	保護者
1	「わかった」「できた」が実感できる授業展開します。 ※児童アンケート「授業の内容がよくわかりますか」(国・算)の肯定回答90%以上	91	68	95
2	学年に応じた家庭学習の習慣を身に付ける取組を行います。 ※児童アンケート「学年に合った時間(学年×10分)の家庭学習ができていますか」肯定回答80%以上	87	79	96
3	本に親しみ、望ましい読書習慣を身に付ける取組を充実させます。 ※年間目標達成状況達成率80%以上(1学期分1・2年20冊、3・4年15冊、5・6年10冊かつ1000頁)	70	58	82

No. 1 「『わかった』『できた』が実感できる授業を展開します。」について

児童アンケートの結果は、国語肯定評価94%、算数肯定評価88%でした。各授業者が児童の「わかった」「できた」を実感させることを意識した授業づくりのために、校内研究のテーマでもある“授業のユニバーサルデザイン”を意識して取り組んでいる結果であると捉えています。

保護者の方からの評価も高く、学校の取組を高く評価していただいておりますが、教職員の評価は高くありません。授業者のねらう目標と子どもが自覚している達成状況のずれはないか、「分かったつもり」、「できたつもり」になっていないか等に注意を払いながら、さらなる授業改善を図っていきたいと考えています。

No. 2 「学年に応じた家庭学習の習慣を身に付ける取組を行います。」について

学年別にみると5年生以外の学年は達成できています。家庭学習強化週間や担任の指導、評価がきちんと行われていることについて、保護者から高く評価していただいております。その中で、なかなか家庭学習習慣が身に付かない児童への指導、支援については、家庭の協力を得ながら進めていきたいと思っております。

No. 3 「本に親しみ、望ましい読書習慣を身に付ける取組を充実させます。」について

読書の推進は、今年度の重点の一つです。目標達成状況は年間読破目標の達成状況で評価することとしていますが、1学期末の段階で目標達成にはいたっていません。担任からの働きかけがたりなかったり、児童がきちんと記録していなかったりしたため、実際よりも低い評価となってしまった児童もいたようです。学校では、朝読書や週末読書、児童会での取組(読書月間)など、2学期以降も引き続き力を入れていきます。冊数やページ数による目標設定は、読書意欲向上への外発的な動機付け(きっかけづくり)と捉えています。数値のみにこだわらず、本を読むことの楽しさを味わわせることも大切にしていきたいと考えます。

2 「思いやりのある子ども」

NO	項目	児童	教職員	保護者
4	自分から進んで元気なあいさつができるよう指導します。 ※児童アンケート「いつでも・どこでも・自分から進んで挨拶をすることができている」肯定評価90%以上	85	89	96
5	前向きな言葉かけによる信頼関係の構築に努め、児童の自尊感情を育みます。 ※「自分にはよいところがある」の肯定評価90%以上	80	95	94
6	縦割り班活動などの異年齢集団活動を充実させ、自己有用感を育みます。 ※児童アンケート「縦割り班の人と協力して仲良く活動することができていますか」の肯定評価80%以上	97	74	97

No. 4 「自分から進んで元気なあいさつができるよう指導します。」について

本校の重点として以前から重点として定めている項目です。昨年度まで、肯定評価を80%と設定し達成することができたため、今年度はさらに目標を高く設定して取り組んでいます。85%は低い数字ではありませんが、個人差があったり、場面によってはあいさつできなかつたりという実態もあるので、引き続き力を入れて取り組んでいきます。

No. 5 「前向きな言葉かけによる信頼関係の構築に努め、児童の自尊感情を育みます。」について

今年度、前向きな言葉かけ（ペップトーク）を通じ、児童と教師、児童と保護者の信頼関係の構築を図り、児童の自己肯定感を図ることに重点をおいています。そして、自己肯定感を図る指標として、全国学力学習状況調査の質問項目にある「自分にはよいところがある。」のアンケートを全校児童対象に実施し、本項目の達成状況を検証することとしました。教職員・保護者とも取組評価は高いのですが、児童の評価は目標に達していません。一人ひとりの児童を受容し、適切な場面で承認・励ましの言葉をかけることを意識しながら児童に接していきたいと思えます。

2学期には、家庭教育学級として、自己肯定感を高める言葉かけをテーマに講演会を実施する予定です。

No. 6 「縦割り班活動などの異年齢集団活動を充実させ、自己有用感を育みます。」について

縦割り班活動は、本校の特色ある教育活動の一つであり、長く続くこの取組は、保護者からも高く評価されています。児童は、縦割り班活動において、異学年の児童とも仲良く協力しながら活動できていると評価しているようです。この活動を通して、児童の自己有用感がさらに高まるよう、さらに充実したものにしていきます。

3 「身体をきたえる子ども」

NO	項目	児童	教職員	保護者
7	運動に親しみ、技術の習得や体力の向上に進んで取り組む活動を充実させます。 ※休み時間の運動、マラソン、水泳の取組アンケート肯定評価80%以上	85	89	99
8	「早寝・早起き」「食育」など、健康的な生活習慣を育む取組を行います。 ※児童アンケート「早寝・早起き・朝ごはん、を守っていますか。」の肯定評価80%以上	85	68	95
9	メディアコントロールの習慣や情報モラルを身に付ける指導を充実させます。 ※児童アンケート「若小さくすのネットゲーム宣言やわがやの決まりを守っていますか」肯定評価80%以上	80	68	92

No. 7 「運動に親しみ、技術の習得や体力の向上に取り組む活動を充実させます。」について

運動習慣の形成、体力向上に関しては、児童・教職員・保護者とも高い評価となっており、一定の成果を上げています。「元気アップチャレンジ」（60プラス）などの取組を継続していきます。

No. 8 「『早寝・早起き』『職員』など、健康的な生活習慣を育む取組を行います。」について

健康的な習慣の育成について、児童、保護者は高い評価をしています。教職員は、工夫改善の余地があると捉えています。全体指導に加え、保護者と連携した個別の指導・支援にも力を注いでいきます。

No. 9 「メディアコントロールの習慣や情報モラルを身に付ける指導を充実させます。」について

ネットゲーム宣言や「我が家のきまり」を決めて取り組むこと、学校では学年の発達段階に応じた情報モラルの指導を行うことを取組の柱としています。学校での取組期間だけ守っていたり、個人差が大きかったりという課題もありますので、家庭と連携しながら引き続き力を入れていきたいと思えます。